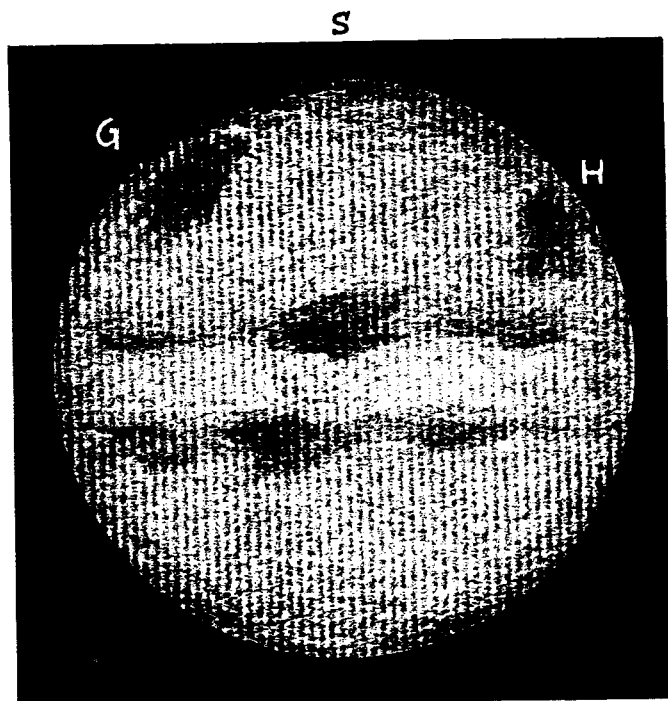


THE

FANCY CRAZY ZIPPY



木星 1994年7月23日19時40分 中心経度353°

CONTENTS

原点 つくる方が面白い

430MHz プリントナ

5エレメント増強法

430MHz SWR計の怪

#212, #213 ダミロード

SL9. 木星に激突!

雑記帖

226 **A**

AUG・1994

寺子屋シリーズ 180 (190)

430MHz 2エレメント フリンテナの 5エレメント 増強法

性能を上げたい

寺子屋シリーズ #180 430MHz 2エレメント
フリンテナは「軽くて、ゲインがあって、再現性が良くて、安くて、実に便利なアンテナです」という評価が固定して来ています。

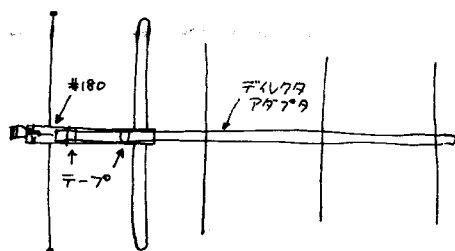
しかし、一方で「もっとエレメントを増やしてゲイン、指向性共に向上させたいがどうすれば良いか？」という御意見も良く耳にします。

1200MHzの場合は、寺子屋シリーズ #181, #191
で5エレメントフリンテナを発売していますが、430MHz
の場合、これを5エレメントにするとブーム長がかなり
長くなってしまい、「簡易アンテナ」として販売する
ことはできなくなってしまいます。

フリンテナを多エレメント化したいという御意見の持
ち主は山岳部が選定をなさっている方に多いようです。
したがって、要求される多エレメントフリンテナの条件
としては、「軽くて運び易い」「ゲインが高い」「指向
性が鋭い」「設置が簡単」「こわれにくい」等があげら
れます。

こんなぜいたくな要求をまじめに考えていくとノイロ
ーギになってしまいます。FCCで認めた特有の気持さ
から息を抜いて考えてみることにしました。

基本的には、430MHz 2エレメントフリンテナ(以
下、#180と略す)の先に3エレメントのディレクタを
取り付け、という方法です。



〈図1〉 #180 とディレクタ アダプタの組み合わせ

ブームはICレール

いろいろなキットを作っていると、いつのまにか IC

つくる方が面白い

前号に続いてFCCZの法則です。
「マーフィの法則は読んで読むよ
り作った方が面白い」

人の作った法則(といえるかど
うかわからないけど...)を読ん

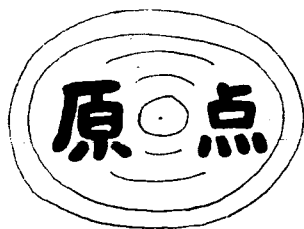
でいても、あくまでもそれは受動的なものです。

しかし、あなただって考えてみれば10や20の
法則を作ることはそんなにむずかしいことではない
と思うのです。

「本を読む」と「本を作る(書く)」のでは、
発想として180°の位相差を持っています。

すわちこれは「逆転の発想」なのです。

クロスワードパズルをはじめ、いろいろなパズル



があります。

「パズルは解くもの」という
発想が大方の意見だと思います
が、「パズルは作る(創る)も
の」という発想に換えてみると
面白さは格段に大きくなるので

す。「逆転の発想」なんて何かやたらとむずか
しい事のようにお思いの方も多いと思いますが、パ
ズルを作ることを考えれば、何だか非常に身近な
ものに見えてくるものではないでしょうか?

何でも良いから作(創)ってみる。ということ
をぜひやってみて下さい。(原稿はおすめしま
せん) 特に定年で「することがなにもなくなった」
オジサンが、「何でも出来るようになった」のですゾ!

のレーンがたまって来ます。本来は回収されるべきだと思いますが、回収のためのルートはFCZ LABの様
な末端までは敷かれていません。

そこで、今回のアンテナの多エレメント化ではアンテナのブームとして「ICのレーン」を使うことにしました。

このICレーンはみなさん御存知のとおり、プラスチックの押出し成型品で、軽量、かつ或る程度の強度を持ち、何より安価であるというものです。



＜第2図＞
ICレーンの断面

ICレーンとアンテナとの接合は、ビニルテープで固定すれば良く、特に問題はあります。

寸法は

さて、次なる問題は、ダイレクタとしての3本のエレメントの各々の長さやスペーシングです。

#181の1200MHz 5エレメントアンテナの各寸法を約3倍すれば良いはずですが、実際に寸法をとってみると、又、又むずかしい問題にぶつかってしまいました。

と、いうのは、#180と#181のリフレクタ、ラジエタのエレメント長と、その間隔を単位%入で計ってみると表1に示すような値になりました。

＜表1＞ #180と#190の波長の比較(%入)

	リフレクタ	ラジエタ	間隔
#180	50	46	20
#181	59	55	17

こんなに数値的に異っているものを基準に計算で数値を算出するというのもどうかと思います。

大体、こんなに異った数値なのに、それぞれ、それぞれこのアンテナになっているということからして不思議なことです。

もうこうなったら、ヤミクモに作ってみるしかなさそうですね。

とりあえず、1.6mmφのIV線を255, 245, 220mmに切断してD₁, D₂, D₃とすることにしました。(このそれぞれの数値に關しては根拠となるものはあり

ません。兄、#180の前に並べてみて「この位かな？」という感じで切断しました。)

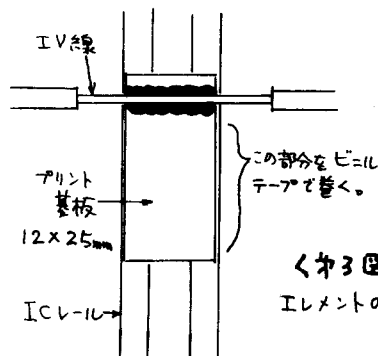
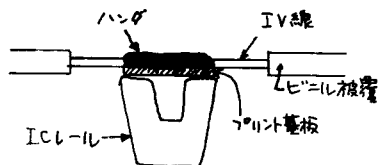
エレメントの固定法

次なる問題は、このダイレクタとして切断したIV線をどのようにICレーンに固定するかということです。実はこの問題が#180を5エレメント化するにあたって最大の難関でした。

この問題を解決するために何ヶ月という時間を費しましたが、いざ出来上ってみるといとも簡単な方法で解決することができました。

プリント基板を12×25mmの大きさに切断します。(3枚) これに第3図に示すようにダイレクタエレメントを各々ハンダ付けします。

それをビニルテープでICレーンに巻きつけます。

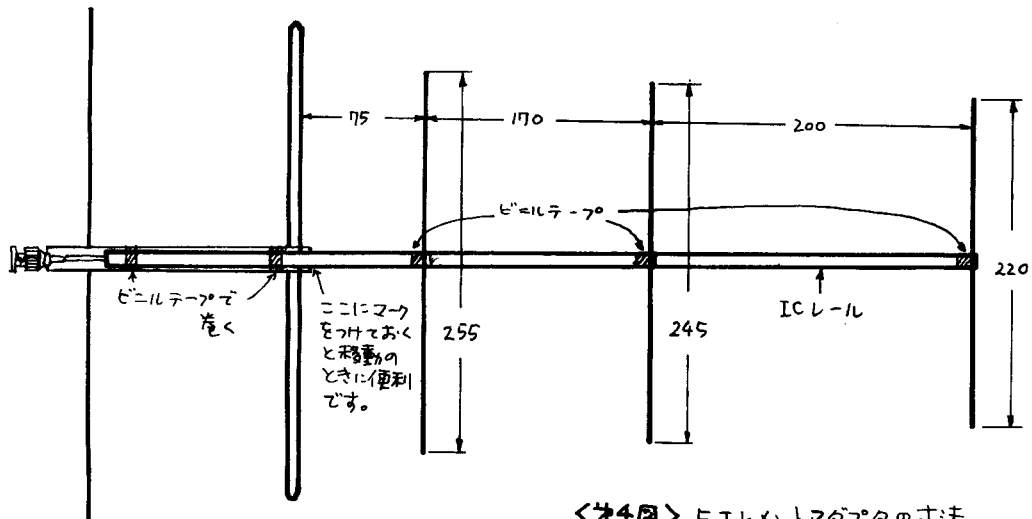


＜第3図＞
エレメントの固定法

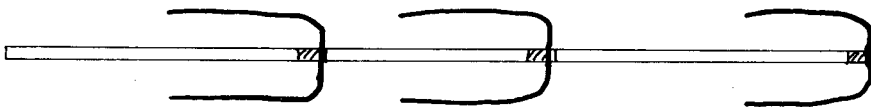
スペーシング

こうしたエレメントをどんなスペーシングでブームに取っつけるか？ ですが、エレメントの寸法が「エイヤッ」と切断したものですから、そんなに深く考えても始まりません。こちら「エイヤッ」と取りつけてみました。

SWRを計ってみると……今度はSWR計に問題があることを発見！ こんどはSWR計の改良に走るやら「気楽に5エレにする」なんて言葉はどこかへ飛んでしまい、一時は本当にパニックでした。



＜オ4図＞ 5エレメントアダプタの寸法



＜オ5図＞ アダプタ部の移動時の形態。運用地でエレメントを伸ばす。

まあ、結局、SWRも1.2位に納めてくれましたのでそのときの寸法をオ4図に示しました。

ゲインは室内測定ですからはっきりはしませんが、#180に対して4～5dB位UPしました。もちろんビームは相当鋭くなっています。

使用法

固定局用として使う場合は所定の位置にエレメントを固定した後、アンテナそのものの方向を固定して下さい。但し、元々#180は移動用として作られたものですから耐久性はそれほど高いものではありません。その辺の事情はあらかじめ御承知おき下さい。

山岳移動等を使用する場合は、#180本体とディレクタ部分をとりはずし、ディレクタエレメントはてきとうに折り曲げて持ち運び、運用地点でエレメントをまっすぐに伸ばして、ビニルテープ等を用いて#180と合体して使用します。

エレメントの折り曲げは、なるべく折り曲げ半径を大きくとって、使用するとき伸ばし易いように留意して下さい。

#180の本体エレメントもIV線を使用することによって折り曲げて持ち運ぶことができますが、ラジエタ部がよじれ易いので破壊しないように良く注意して下さい。

この#180用5エレメントアダプタは同じようにして寺子屋シリーズ#190にも使用することができます。

作ればわかる

アンテナというものは、シビヤな部分はかなりシビヤなものです。しかし、いいかげんな部分はかなりいいかげんでも働いてくれます。

今回のように、始めからしまいまで「エイッヤッ」と作ってしまったものでも、オリジナルの#180と比べてみると格段の差が出て来ました。

いいかげんに作ってうまくいくと、次に作るものが更にいいかげんなものになり易いものですが、どこがシビヤで、どこがいいかげんで良いかという見極めが大切です。その部分までいいかげんにはいけません。

しかし、とにかく、作ってみたいことにはシビヤもいいかげんも判りません。せむびとって作ってみて下さい。

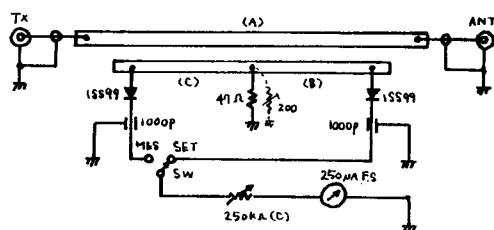
寺屋シリーズ #178

430MHz SWRメータ の怪

オカシイ！？

寺屋シリーズ#178に「430MHz SWR計」があります。今日はそのSWRメータにまつわる怪談をすることにしましょう。

まず第1図に#178の回路図を示します。



〈第1図〉 #178 430MHz SWRメータ回路図

このキットには付属のダミーロード (51Ω) がついていて、メータとしての調整はこのダミーロードを用いて行います。と、ここ迄は特に問題はありません。

ところで前号の広告に、「#212 BNC 50Ω 2Wダミーロード」と「#213 BNC SWR校正用ダミーロード」を掲載しました。(後にこの広告の訂正をしなければならなくなるのです……)

#178の校正は51Ωのダミーロードでのみ行って来たのですが、SWR校正用ダミーロードが出来たこともあって、ぜひこの機会に校正をしておくべきだと考えました。

まずは50Ωのダミーロードです。「SWR 1.05」とOKです。

次は75Ωのダミーロードです。「SWR 1.2」「???」ちょっとおかしいです。

SWRメータのふたをあけてみると、とんでもない値

を示します。

200Ωの半固定抵抗をまわしてみてもどうもうまいきません。200Ωの半固定抵抗はまわし方によっては0Ωになりますから、この部分の合成抵抗は38~0Ωということになります。この範囲の調整で駄目なら、この抵抗は38Ωより高くしなければいけないのでしょうか？

とりあえず47Ωのチップ抵抗をはずしてみました。これで200~0Ωの調整が可能となります。しかしこれでもあまり良い結果は得られませんでした。どうも半固定抵抗の高さがわざわいしているようです。

この部分の抵抗を100Ωのチップ抵抗に置き換えてみました。その結果、ふたをしなればまずまずの成績を得たのですが、ふたをすると75Ωのダミーロードのとき、まだ表示が低くてです。

内部同軸の長さ

寺屋シリーズ#199に430MHzアンテナインピーダンスメータがあります。

このインピーダンスメータの場合、インピーダンスの検出部とコネクタとを結ぶ同軸ケーブル(1.5D2V)の長さがかなりシビアなものであったことを思い出し、その部分を長さ200mm(同軸の速度係数を加味した1/2入は231mmとなる)としてみました。

その結果、少し落ちついて来たようですが、まだまだ「完全」には程遠いものです。

ふたをすると……

SWRメータの終端抵抗を150Ωのチップ抵抗にしてみました。ほんの少しだけ良くなったようです。

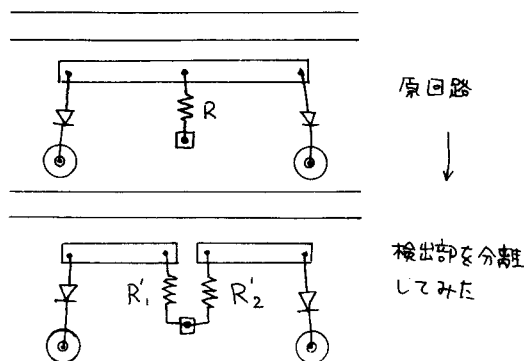
もう少し抵抗値を大きくしてみたかったのですがチップ抵抗の手持ちがなく、仕方なく、1/4 Wの普通の抵抗の220Ωとしてみました。

ふたをあけたままでは、75ΩのダミーロードがSWR 2.0以上になってしまうのですがふたをしめていくと、1.3位は落ちてしまいます。(75Ωのダミーロードですから本来はSWR 1.5となるはずですが……)

検出ラインお本でいいかい

#178の場合、進行波と反射波の検出を(B)、(C)という

いわば一本のマイクロストリップラインで行っています。
もしかしたら……。この検出ラインは2本別々に設定した方が良くはないでしょうか。



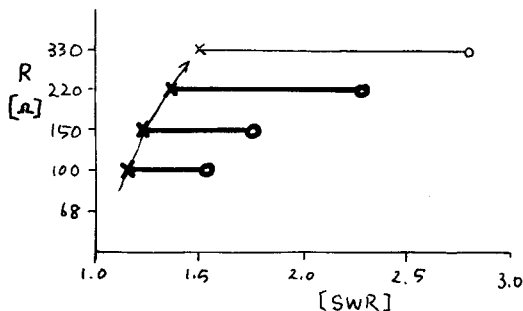
〈オ2図〉 検出部の構造

第2図のような実験をしてみました。 R'_1 , R'_2 の値についていろいろと変量してみましたが無問題と大きな差はありませんでした。

実験は再び原回路に戻して行うことにしました。

技法を変える

頭が混乱したときは技法を変えてみるのも一法です。
ふたをしめたときとあけたときの 75Ω ダミーロードのSWRの値を第3図に整理してみます。



〈オ3図〉 ふたをしめたときの変化

このグラフから、 R の値は 330Ω あたりがよさそうな気がして来ました。しかし、その値は #178 の実に10倍という値です。

エイッヤッ。清水の舞台から飛びおりるつもりで終端抵抗を 330Ω にしてみました。

50Ω のダミーロードが SWR 1.0 75Ω のダミーロードが 1.5 を示すようになりました。

33Ω のダミーでは……。これも 1.5 を示すようになりました。

これでなんとか SWRメータの校正が出来たことになります。

まとめてみると...

こうして文章にまとめてみるとこわくも何ともない話になってしまいましたが、実は「???」,「?!?」,「!?」……といったことが約2日間続いたのです。ときには 50Ω のダミーロードの SWR が 1.2, 75Ω のダミーロードの SWR が 1.0 と反転してしまったこともありました。

以上述べた事柄を少し整理してみましょう。

(1) 従来の #178 の回路では 100% 間違えとはいえないが誤差があって完全なものとはいえない。

(2) 誤差の発生原因は、プリント基板とケースのふたとの間隔の大小が考えられる。

(3) ケースを大きくすることによって誤差を小さくすることが出来、その結果、キットとしての再現性も良くなる。

(4) プリント基板とケースのふたの間隔が小さいときは、終端抵抗の値を高くすることによって誤差を小さくすることができる。

(5) 上記のような要因により、プリント基板の固定はしっかりとしたものにならなければならない。

(6) SWRメータ内部の同軸ケーブルの長さでは、#199 と同じように $1/2$ 入 (n 倍) としなければならぬ。

(7) とりあえずの例、#178 の回路は、終端抵抗を 330Ω とすることにする。

(8) 以上の経験はマイクロストリップラインに限らずその他の回路についても云えるであろう。例えば #199, #187 のアッテネータをケースに入れようとしてうまくいかなかった話等にである。

430MHz の測定器は本当にこわいものですね。やってみればわかります。ぜひやってみて下さい。そして 430MHz の測定器のこわさをぜひ味わって下さい。

寺子屋シリーズ #212

BNC 50Ω 2W **ダミーロード**

SWR 1.0

寺子屋シリーズ #213

BNC 75Ω, 33Ω
SWRメータ校正用 **ダミーロード**

SWR 1.5

寺子屋シリーズ #212, #213 は BNC コネクタのダミーロードです。

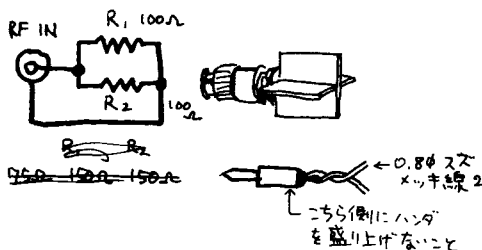
#212 は 50Ω 2W の放熱板付ダミーロードで瞬時的には (3秒使用、10秒休止、コネクタがあたたまったら使用中止) 10 回の使用は可能です。

#213 は 75Ω, 33Ω 1W のダミーロードで、SWR = 1.5 に相当します。#212 と併用して SWR メータの校正用に使います。#213 の定格は 1W ですので SWR メータの校正は 3W 以下でなるべく短時間に行ってください。

両キット共最高使用周波数は 430MHz 帯です。

製作 (#212)

- (1) プリント基板を所定の大きさに切断し、切り口をヤスリで仕上げて下さい。(A, B (2枚) 共)
- (2) BNC-P-5 の内部部品 (スリーブ、ゴムブッシュ、ワッシャ) を取り除いて下さい。
- (3) プリント基板(A) が BNC-P-5 の内部にスムーズに挿入できることを確かめて下さい。
- (4) プリント基板(A) の両面に 100Ω (101 表示) のチップ抵抗をハンダ付けします。
- (5) BNC-P-5 のコンタクト (金メッキされた針) に 0.8φ スズメッキ線を 2 本よりしたものをハンダ付け

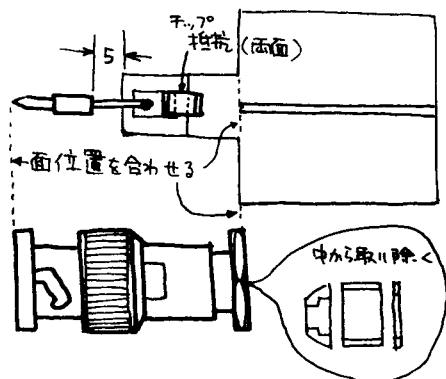


する。

(6) スズメッキ線を、コンタクトの端から 8mm の所で切断する。

(7) スズメッキ線をコンタクト端からプリント基板(A) の端を 5mm の位置でハンダ付けします。(ハンダ代、3mm)

(8) プリント基板(A) にプリント基板(B) を直角にハンダ付けする。(2枚)



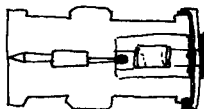
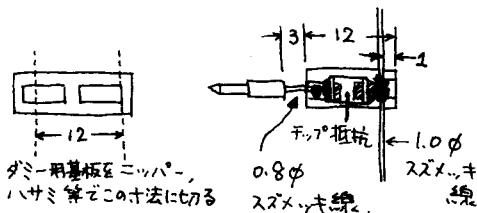
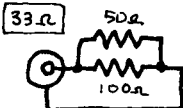
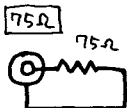
(9) プリント基板を BNC-P-5 に差し込み、プリント基板とコネクタをハンダ付けする。この場合、使用するハンダゴテは 60W 以上のものを使用して下さい。

(10) BNC-P-5 のコネクタ本体と同軸ケーブル締め付け用ネジの両方をハンダ付けて固定する。

(11) プリント基板 (放熱器) の外周をやすりで仕上げ、できれば黒色ペイントを塗る。(黒色のカシュ-塗料で塗ってみた所、丈夫で美しい仕上がりとなりました)

製作 (#213)

- (1) プリント基板を所定の大きさに切る (図)
- (2) BNC-P-3 の内部部品 (スリーブ、ゴムブッシュ、ワッシャ) を取り除いて下さい。
- (3) BNC-P-3 のコンタクトに 0.8φ スズメッキ線をハンダ付けします。
- (4) プリント基板にチップ抵抗をハンダ付けします。33Ω の場合は 100Ω の抵抗を付けてからその上に 50Ω の抵抗を 2 階建てに取り付けて下さい。75Ω の場合は 75Ω の抵抗を 1 枚取付けて下さい。
- (5) BNC-P-3 のコンタクト部 (3) をプリント基板に取り付けて下さい。コンタクトとプリント基板との間



ケーブル締め付けネジを調整します。

(8) ダミーロードのアース部(7)を BNC-P-3 にハンダ付けします。

(9) コネクタに75Ω, 33Ωの表示をする。

お詫び

※213に南する前号の広告中、定格2Wと表示しましたが1Wに訂正させて頂きます。 ※199に内蔵する50Ωのダミーとの組み合わせも可能です。

又、価格を※212 640円を1,280円。

※213 1,280円を1,700円

にそれぞれ訂正させて頂きます。

隔は図に示すように「3mm」を厳守して下さい。

(6) プリント基板のコンタクト取り付け位置の反対側に1mmφのスズメッキ線をハンダ付けして下さい。

(9) 出来上がったダミーロード部をBNC-P-3の中に埋め込みます。コンタクトの先端部がBNC-P-3の本体の先端部と同じ位置に来るようBNC-P-3の同軸

ヘンテナ情報

この秋から大裕工業(株)という会社から430MHz. 多エレメントヘンテナが発売されます。ヘンテナの普及のため当社も協力することになりました。試作品をハムフェア会場も展示します。ぜひご覧下さい。



この夏、楽しい想出も！ 暑い暑くも何のそのQRPI. 製作に..... MIZUHO



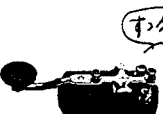
ヒコシス
MX-6S
MX-21S
MX-7S
限定生産
MX-28S
在庫あり



14.4MHz SSB CW
フルレイン
好評発売中!
出力1W
¥38,000



カーテス社IC
エレクトロキー
オールキットCK-1D
¥9,000 ¥500

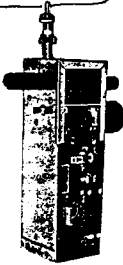


すたろあらしみ
ベビーカー
BK-1 ¥800
¥1,150



新製品エース
PAN-62
★ポケットタイプ
6m. 2m 兼用 ¥5,200 ¥270
★トランシーブ
6m 用 ¥4,200 ¥190
★近日常売! ハムフェアで公開
21H 自作のためのSSB, CWトランシーブ
ユニット. 出力5W. 4ch VFO
ジャックにデラックスワールドクロック ¥4,400
¥700

プロトタイプ
FRX-80キット ¥1,900
FOXセンサー
14.4 FRX-2001 ¥28,000



QRPCW専用トランシーブ
オールキット P-21DX, P-7DX



¥24,000

うくらくモリス マスター
ヒコモリス
3アマニア
1台でOK
NHIC-03Xユニット
¥2,300 ¥500



Mizuho

ミズホ通信株式会社

194 東京都町田市高ヶ坂1635

☎0427-23-1049



1000年に1度

シューメーカ・レビー第9彗星が木星に衝突するというニュースはTV、新聞等々にぎわしました。

衝突以前、アマチュアの望遠鏡では何も見えないだろうと予測されていたのですが、7月22日20時30分頃望遠鏡(D:100, f:600 反射)を引っ張り出してのぞいてみたところ、何と上のカットのように2つの黒い雲のようなものが見えたのです。

それまでの各種ニュースではアマチュア用望遠鏡で衝突の痕跡が見えるということは報道されていなかったのど半信半疑でした。

それから毎日、木星をスケッチしてみました。

そして、木星の自転速度から経度を計算してみました。

木星の自転速度があんなに速い($9^h55^m40^s.632$)とは今迄知りませんでした。

木星は表面がガス体のため、座標の原点がはっきりしません。まして観測データが都会地だ、望遠鏡も100mmの短焦点ですからはっきりしない所が多々ありました。

LとG

7月27日の「赤旗」に「小口径望遠鏡でも観測」という記事があり、甲府市の陶本さんという方のスケッチが掲載されていました。このスケッチは、上記カットのスケッチより1時間早いもので、国立天文台の渡辺国一さんによってL、Gの痕跡であることが説明してありました。

陶本さんのスケッチを1時間ずらしてみると丁度私が見たカットのスケッチと同じになりました。

そこでこの2つの痕跡をG、Lとしてボケコシのプロ

グラムを組み、観測したスケッチの中央経度を計算してみました。

スカイウォッチャー誌8月号のデータと比べると、このL、Gの位置は約 100° 位シフトしているのですが、その他の痕跡を計算された経度にあてはめてみると、相対的位置にまちがいはなさそうでした。

木星のモデル

そして、木星の模型を作ってみました。

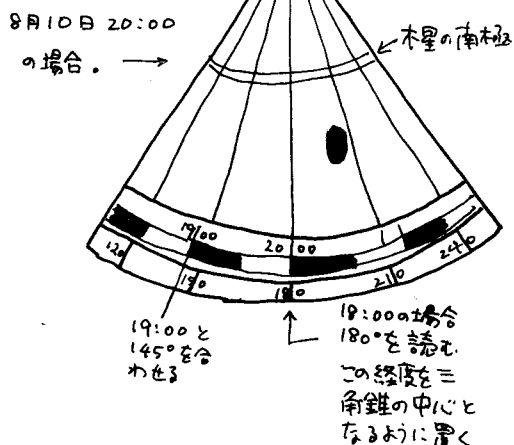
次のページをコピーして下さい。

2枚のパターンをその外周で切りとって下さい。

のりしろにのりをつけ、三角錐型とリング状のものを作ります。

観測日の19時の木星経度を表1によって求めます。時間リングの19時と表1で求めた経度を合わせます。

時間リングで実際に観測したい時間の場所をさがし、模型全体をまわしてその時刻が三角錐のまんなかに見る位置をさがします。そのときのスケッチがそのときの木星の表面を示しています。



ここで、おことわりしておきますが、まだ一面程度だけのスケッチからこの模型を作っていますから、もしかしたらこの模型には大きなまちがいがあるかも知れません。それを検討するためにもこれからの観測が必要となってきます。またこの痕跡は急速に拡散を始めているようでもあります。コンディションの良い所にお住まいの方のスケッチがほしいですね。

《第1表》

19:00 JSTに於ける木星中心経度

月/日	経度°	8/10	145
7/20	239	11	295
21	29	12	85
22	179	13	235
23	329	14	25
24	118	15	174
25	269	16	324
26	58	17	114
27	208	18	264
28	358	19	54
29	147	20	203
30	298	21	353
31	87	22	142
8/1	237	23	293
2	27	24	83
3	177	25	232
4	327	26	22
5	116	27	172
6	266	28	322
7	56	29	112
8	206	30	261
9	356	31	51

* 木星経度 体系IIによる

参考資料 スカイウォッチャー-8, 194.

赤緯 7/27

〈注意〉 この木星模型はSL9衝突痕観測のためのものですが、少ないデータで作ってありますからまちがいがある場合があります。

また、木星の表面はガス体であり、痕跡も拡張しております。

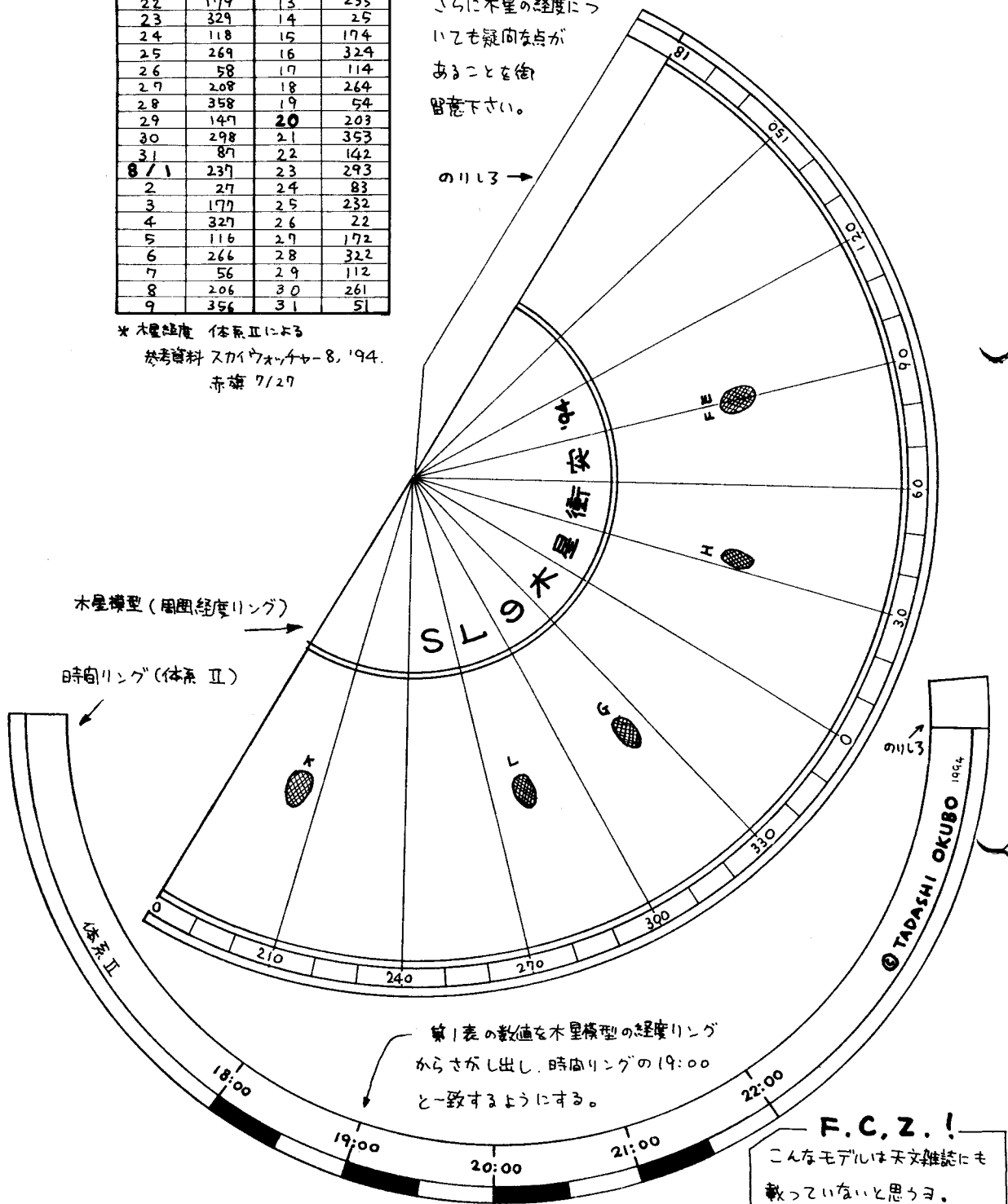
さらに木星の経度につ

いても疑問な点が

あることを御

留意下さい。

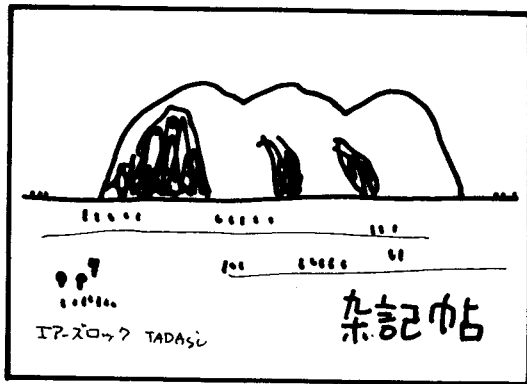
のりし →



第1表の数値を木星模型の経度リングからさがし出し、時空リングの19:00と一致するようにする。

F.C.Z.!

こんなモデルは天文雑誌にも載っていないと思うヨ。



＊ エアーズロック 皆様御存知かも知れませんが、エアーズロックはオーストラリア大陸のドメイン中にドカンと横たわる一枚岩です。

そのまわりは、どちらを向いても、どこまで行っても薄です。一番近い町はアリススプリングでジェット機で約20分。その商人、全くなし。

エアーズロック飛行場から車で約10分位の所にエアーズロックリゾートという所があって、そこにホテルやロッジ等があるだけです。

ホテルからはもちろんエアーズロックは手に取るように見ることができます。しかし、その距離約25km。車で走ってもかなり時間がかかります。何か私達の距離感にはメチャクチャに狂ってしまったようです。

距離感の狂った原因は「空気の透明度」にあるようです。それともう一つはホテルとみかけの屋のような施設を全部エアーズロックリゾートに押し込んでしまい、人工物は道路一本だけという管理法もそれに一役買っています。(日本だったらこうはいかないだろうな)

＊ 銀河 昨年8月、木曽、御嶽にペルセウス流星群を見に行きました。そのとき、久しぶりに銀河と再会して感激したものです。

ところが、エアーズロックで見た銀河は、御嶽で見た銀河とくらべるとまさに「月とスッポン」。そのすさまじさにド肝を抜かれる思いでした。

日本でも「自然」ということばが良く使われるようになって来ましたが、この地で、この星を見てしまったら自然ということばが「身のまわりのもの」から「宇宙的なもの」にスケールアップせざるを得ませんでした。

赤い砂漠のまんまに、とてつもなく大きな一枚岩が

生えている(この表現がピッタリ)のも実に不思議ですが、エアーズロックは星を見て来るだけでも価値のある所です。

＊ デイジュリドゥ 飛行機の乗換でアリススプリングの飛行場の待合室に入ったとき、売店の方から何とも云えない音が響いて来ました。

「ボー……」といった感じの音です。

何か魂をゆすぶられるような感じの音です。

これがアボリジニーの楽器「デイジュリドゥ」でした。

デイジュリドゥという楽器は、白蟻が巣を作ったユカリなどの枝の直線部分を切り取り、中に住んでいた白蟻を追い出し、表面にアボリジニーアートをほどこした1.5m位のパイプです。

2度目にデイジュリドゥの音楽に出会ったのも劇的でした。

バーベキューというツアーがあって、それに参加したときのことです。

小高い丘でシャンパンをのみながらエアーズロックを真っ赤に染めて沈む太陽を見て、一寸下にあるバーベキューの会場に戻ってみると、デザートオークの木の下に二人の人がすわっていました。やがてそのうちの一人の人がデイジュリドゥを吹き始めました。もう一人はリズムセクションです。

日が沈んで、まわりがだんだん暗くなっていくとき、その音は深く身体の中にしみこんでくるのです。

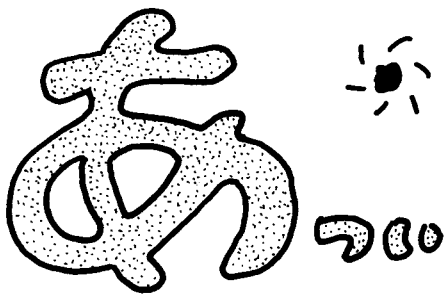
もうこの音は単なる音楽ではなく、「宗教だ」と思いました。

アボリジニーの人生そのもののような気もしました。

みかけの屋で売っているデイジュリドゥを一寸吹いてみましたが、「スー」というだけで私の手には負えそうになく、思わず帰って来ました。日本に帰ってからボール紙のパイプで練習した結果、何となくデイジュリドゥらしい音が出るようになったのですが、肉體は循環呼吸法というもので、息をはきながら息を吸うというマジック呼吸法が今のところどうにもなりません。

上手な人は10分位音が続けられないで吹いているのですが……。

絶面ささえあればまだまだお話しはいくつもあるのですが……。とにかく赤い砂漠のとりこになってしまいました。



高い山の上から
ON AIRするなんて
一寸、涼い話などは
思いませんか？

ですねエ。

夏休み あついときは休むに限るという訳で、FCZ Lab. は8月中、原則として夏休みとします。どうしても御来店の希望のある方は事前に電話して下さい。なるべく御希望に添うようにします。

コイル、寺子屋シリーズキットは下記の販売店でお求めになれます。

Tゾーンパーツショップ 03-3257-2675

(株)千石電商 03-3253-4411

サトー電気町田店 0427-25-2345

サトー電気川崎店 044-222-1505

シリコンハウス横浜 045-644-5177

共立電子産業(株) 06-644-4446

デジト 06-644-4555

中部無線産業、富山 0764-91-6386

(株)波夢人 093-951-1916

寺子屋シリーズ変動

#134 紅毛通信用リアンプ 廃止

#147 VOX完全キット もうじき廃止

#212 BNC 2W 50Ω ダミロード

¥640円 → 1,280円

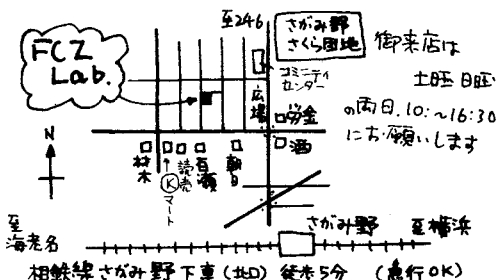
#213 BNC, SWR 校正用ダミロード

¥1,280 → 1,700円

振り替番号 横浜7-9061 から 00270-9-9061

に変わりました。但し、郵政省には、上記にもかかわらず、新番号用の振り替用紙(赤)が用意されていません。したがってFCZ購読用振替用紙は従来のものを使用します。(1年位はどちらの番号でもOK)

ハムフェア'94 CZ Lab. は今年もお休みです。但し、FCZ個人としてはQRPクラブ、または大格工業(株)のブースに居ります。ぜひお立寄り下さい。



FCZ 研究所 株式会社

〒228 座間市東原4-23-15

TEL. 0462-55-4232 振替 00270-9-9061

The FANCY CRAZY ZIPPY No. 226 1994年8月1日 発行

(株)FCZ研究所 発行 〒228 座間市東原4-23-15, TEL 0462-55-4232, 振替口座 横浜7-9061

編集発行人 大久保 忠 JH1FCZ/JA2EP 印刷 上条印刷所 年間購読料 3,000円(税込)

1部 税込

200円

(194円+6円)

〒80円